**第13章　事後学習ワークシート**

1．次の特性が，どの発達障がいに当てはまりそうかを考え，番号を書いてみよう。

A.自閉スペクトラム症　　 　B.注意欠如・多動症　　　　C.学習障がい/限局性学習症

① 通園路を道路工事等で変えるとパニックになる。

② 忘れ物や失くし物が多い。

③ ドリルを繰り返し練習してもできない。

④ 時間や期限を守れない。

⑤ のりの感触を嫌がる。

⑥ 整理整頓ができない。

⑦ 大きな音を嫌がって耳をふさいだりする。

⑧ 人の話を聞いていない。

⑨ 言葉の裏の意味をくみ取ったり，日常的な会話が苦手。

⑩ 手足を絶えず動かしている。

⑪ 幼児期に文字や数字に興味がない。

⑫ 座っていられない。

⑬ 落ち着きがない。

⑭ オウム返し。

⑮ 洋服や靴の左右を間違える。

⑯ 順番が待てない。

⑰ 自分の番を待たずに思いついたらしゃべる。

⑱ 年齢にあった絵が描けない。

⑲ 相手の許可を得ずに他者に干渉する。

2.次の文章について，空欄に適切な用語を第13章の文中から探し出してみよう。

　発達障がいの(　　　　　　　　　)とは，発達障がいの特性や傾向はあるものの，医学的な(　　　　　　　　)を満たさないために，診断されるに至らない状態を指す。

発達障がいは，(　　　　　　　　　　)診断がつくことも多くある。そのため，保育現場で近年注目されている(　　　　　　　　　　　)も，診断はついていないが発達障がいの(

　　　)を疑われる場合が多いと考えられる。

3. 発達の気がかりな子どもの理解と支援について，空欄に適切な用語を第13章の文中から探し出してみよう。

発達の気がかりな子どもを支援するためには，まず適切にアセスメントを行う必要がある。保育者は，(　　　　　　　　　　　　)子どもの理解に努め，個々の子どもがもつ様々な課題に対して，自身の経験や培った知識を用いて(　　　　　　　　)を考えている。

発達障がいの知識を深めることで，保育者は(　　　　　)を立てられるようになる。

ただし，見立てをする上での注意点として，あくまでも仮説であり，(　　　　　　　　　　　　　　　　　　)。大人の視点から決めつけることなく，常に(　　　　　　　　　　　　　　　)ように心掛けるべきである。

4. 次のような場合，どのような声掛け，あるいは対応ができそうか，考えてみよう。

(1)　 少し不注意があり，保育者の話を時々聞き漏らしてしまう子

(2) 感覚過敏があり，運動会のピストルの音を嫌がり，両手で耳をふさいでしまい，

　　スタートが出遅れる子